

映像観賞候補作品

以下は候補作品の一例です。

【映画】

➤ 東京物語

1953年小津安二郎監督作品。社会の基本単位である家族の世代交代を描き、時代を超えて色褪せないテーマとその描写が秀逸。2009年キネマ旬報の企画、日本映画の「オールタイム・ベスト」ランキングの1位。没後も黒澤明とともに世界的に著名な日本映画監督の一人。

➤ 七人の侍

1954年黒澤明監督作品。エンターテインメントとして優れているとともに、リーダー、フォロアーと大衆という視点でも観ることができる。3時間を超える長編だが、ストーリー、配役、カメラワークなど、面白い映画を作るための教材としてみることもできる。スピルバーグやルーカスなど世界の映画人に影響を与え、アメリカではリメイクされた「荒野の7人」がヒットするとともに、「スター・ウォーズ」第1作では黒澤作品の「隠し砦の三悪人」の場面が使われている。

➤ モダン・タイムス

1936年チャールズ・チャップリン監督作品。効率を求める社会とそこから生じる人間疎外を描いた秀作。84年前の映画であるにもかかわらず、描かれているのは決して過去のことではなく現在にも通じることのように思える。主演も務めるチャップリンの演技を一度見ておくことは、映画を語る上での基礎かもしれない。

【ドキュメンタリー】

➤ 映像の世紀第15章「東京 夢と幻想の1964年」

映像の世紀は、学校で取り上げることが少ない20世紀の歴史を効率的に把握する便利な資料である。66年前のオリンピックと日本を観て、今年のオリンピックを観てはどうだろうか。

➤ NHKスペシャル「難民と歩んだ10年 ～緒方貞子・国連難民高等弁務官～」

2019年10月に亡くなった緒方貞子さんは、日本人初の国連難民高等弁務官（UNNCR：国連難民高等弁務官事務所のトップ）として、世界の紛争地に赴き難民支援に取り組んだ。難民キャンプの現場からも、国連という世界政治の舞台からも信頼され、尊敬されたリーダーである。学生時代に、優れたリーダーの事例に数多く触れることは、大切な心の糧である。